



こんにちは

村田 けい子 です

2016.3.18
No.43

みなさんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。フェイスブックやっています。

発行/日本共産党立科町議会議員 村田桂子 立科町塩沢1483 ☎0267(56)2868

「オスプレイの飛行訓練ストップ」の意見書可決！

「ピースアクション佐久」から出され、村田が紹介議員となった「米軍輸送機CV22（空軍）MV22（海兵隊）両オスプレイの飛行訓練に反対し、飛行中止を求める意見書提出の請願」は3月9日の総務常任委員会で議論され、賛成が2人（村田・村松議員）のみで、この議会で結論を出さない「継続審査」となりました。他の議員にこの旨を伝えたところ、軽井沢町議会も意見書を挙げており、「なんとしてもこの議会で意見書を挙げ、町民の声を示そう」となり、本会議で採決を求める動議（提出は今井英昭議員）を提出、賛成多数で議決することに。

賛成討論は今井清議員が行いました。賛成討論では「農業と観光の町である立科町、その上空を危険なオスプレイが飛行訓練することになれば、観光客が来るでしょうか。住民の安心・安全のために町上空での飛行訓練には反対です」と述べました。採決した結果、7：4で可決され、政府に送られました。賛成は上記3名の議員の他に、森澤、村松、西藤、森本議員です。

常任委員会で「継続」とされても「異議」を申し立て本会議で「採決・可決」となったもので、立科町議会の見識を示したものといえるのではないのでしょうか。

同時に出されていた請願2本、「集団的自衛権」行使を具体化し、戦争につながる安全保障関連二法のすみやかな廃止を求める請願」と「集団的自衛権」行使を現実のものとする安全保障関連二法の廃止を求める請願」は、賛成が村田・田中議員の2名だけで、6月議会までの継続審査となりました。継続を主張した議員は「前は反対したので」「県議会に出されているから」「前は住民の反対のうねりがあったが、今回はそれとは同様には受け取れないから、国会での議論を待ちたい」（いずれも概要）というものでした。

**危険なオスプレイは飛行するな！
戦争訓練を上空でするな！と声をあげましょう。**

【3月議会質問より】



* 移動解体車の導入で 害獣から資源に！

年間200頭以上捕獲されるニホンジカ。くくり罠免許の取得で捕獲頭数が増えて、補正予算をつけるほど。しかしその利用は、処理のむつかしさから、土に埋めるのが一般的となっています。

このほど日本ジビエ振興会が、「移動解体車」を開発。林道奥深く分け入って、捕獲したシカを直ちに皮剥ぎ、解体処理など1次処理ができ、保冷庫に貯蔵し、そのまま、加工場に運搬が可能となります。広域で処理場を作り、ジビエ料理の研究をして、燻製、ジャーキー、ペットフードなど様々な加工で、町の特産品にできないか、と求めました。

<答>

「すでに取り組んでいるところでも、採算が取れずに困っている。『絶対』やらないほうが良いとアドバイスを受けた」 農林課長

みすみす資源を土に埋めてしまうのはもったいないことです。移動解体車はまだ第1号がこの5月から稼働予定。野生鳥獣の利用もこれからです。



今週の
パチリ

お猿でごザル（折り紙）

茂田井のあるお宅の玄関に、それは見事な銀色に輝くドラゴンが飾ってありました。ご主人が折られたとのこと。感心していると次々と作品が登場。このお猿さんも、金色の折り紙で折られています。今にもちょろちょろと駆け出しそうで、あまりの見事さに、パチリさせてもらいました。

手前の星型のものは、保育園のお嬢さんの作品。「門前の小僧、習わぬ経読む」です。ね。「パパッ、すごい！」

【一般質問より】医療問題を取り上げました。

1. 「日赤川西病院で透析を」...送迎バスのある病院で透析事業実施を

高齢になり、車の運転もままならない患者さんが町だけでも18名。佐久総合病院など遠くに通っています。高齢化も進んで車の運転も大変。そこで「送迎バスを出している川西日赤で透析事業を始めてもらえないか、町民の声を届けて」と質問。

町は、「川西日赤は必要な病院」と認識。そのため日赤の審議委員や運営委員として町長が出席している。「その折に声を届けたい。」と答弁。患者さんの平均年齢は72.6才。佐久市・東御市・立科町の3者で8,000万円の補助（H25年～29年まで、町負担分はその24%で1,920万円）をする予定。と答えました。

また、私は、質問の前に川西日赤の総務課長・事務局長とも面会し、町民の要望について懇談しました。日赤は現在、あるべき姿を探ろうと「川西赤十字病院 医療ニーズ調査」というアンケートを取っています。中間とりまとめでは立科町から134人が回答。（全体の32.4%）回答者の6割が川西日赤のお世話になっており、またその理由は「近いから」と答えています。また今後受診しない理由を尋ねたところ「症状に適する医師がないか

「他の大病院で受診するから」という回答が多く寄せられました。医師不足は深刻です。透析を行ってもらえば、新たな患者獲得にも道が開かれます。

今後は、患者団体を作って運動をしていきたいと思います。



2. 「医療費無料制度、文字通りの無料化を！」

立科町は高校卒業まで医療費は無料ですが、いったんは窓口で3割分を支払う償還払いとなっています。ひとり親家庭などは貧困率は2世帯に1世帯以上、子どもの貧困が6人に一人という状況では、この窓口負担が重くのしかかり、医者に行くのをためらう原因となっています。そこで、

- ①母子父子世帯は何世帯あるか。…65世帯
- ②母子父子世帯住民の払う3割分はどれほどか。…270万円（自己負担分3割分－500円）
- ③1回500円の負担金は月にしてどれほどか。…月38万円、年額458万円と回答。

つまり65世帯でまず、窓口を無料にするには、270万円あればできるし、あと458万円あれば自己負担額を無くすことができるのです。合計約730万円あれば完全窓口無料化が実施可能。

町は「**県の制度としてやっているの、町だけではできない**」と回答しました。

しかし、医療費が手元に戻るシステムは、①医療機関が3割の自己負担分を町にお知らせし、②町がその情報をもとに個人の口座に振り込む という手順でやっているの、

【窓口を無料にするためには】

- A.医療機関が個人に請求せず町に請求する。
- B.町が医療機関に払い込む。
- C.1回500円の自己負担分は県に払うので、町がその分を県に支払う。

ことで実現できます。



町がまず、町内の医療機関に協力をお願いすれば、町内に限り、窓口無料化は実現できると考えます。せめてひとり親家庭の低所得者には窓口を無料にすべきです。「実現するため、知恵と工夫を働かせて」と訴えました。

3. 妊産婦への医療費無料制度の拡大を…今年の4月から

町長の議会招集挨拶で、無料制度が妊産婦にまで拡大することが判り、詳しく質問。対象者は3月だけでも22名。費用は年間150万円を予算化。「母子手帳発行月から、出産の翌月までのお母さんと赤ちゃん」に適用。受給者証を発行し、医療費はいったん3割支払ってもらってから、償還払い（3か月後に口座へ）。

妊婦さんは合計14回の検診が受けられますが、その時には費用は掛かりません。医療費も同様に措置すれば無料にできると考えます。また外国籍であっても「住民ならば無料」であることを確認。1歩前進ですね。